

# SHOW HEY シネマルーム

★★★

## 阿片戦争

1959年・中国映画・110分  
配給/フォーカスピクチャーズ

2003 (平成15) 年2月2日鑑賞  
〈シネ・ヌーヴォ・中国映画の全貌2002-3〉



監督：鄭君里、岑范  
出演：趙丹（チャオ・タン）

### みどころ

1959年製作の中国映画。時代は清王朝の末期。皇帝から広東都督軍に任命され、アヘンの追放を目指すために奮闘する林則徐の姿を描く。外にアヘンの利益を狙うイギリス商人、内にこれと結託して賄賂漬けにされた宮廷の役人たちーこの「二つの敵」といかに闘い、「自立中国」を目指すのか時代のスケールが大きすぎて、この映画では十分な迫力をもって描ききれていないのは少し残念だが、この時代の映画と考えれば仕方なし・・・。まずまずの佳作。

#### ＜阿片戦争と林則徐＞

これも九条のシネ・ヌーヴォで開催されている、「中国映画の全貌 2002-3」で2月2日に観たもの。歴史モノの大好きな私としては、プログラムの中からどうしても観ておきたいと思った、1959年製作の中国映画。清王朝末期の中国は、イギリスから流入してくるアヘンに苦しんでいた。しかし「密貿易」で儲けているイギリス商人たちがこれをやめるはずがなく、これと結びついた腐った宮廷の役人たちも賄賂漬けにされていた。そんな中、皇帝の命により広東都督軍に任命された林則徐は、アヘン追放のため、「イギリスとの戦争も辞さず」との姿勢で敢然と立ち上がった。

#### ＜外の敵（イギリス）と内の敵（腐敗した役人＝抵抗勢力）＞

しかし、これを心よく思わないのは、旧体制の中で特権を握ってきた、いわば抵抗勢力の役人たち。うわべは林則徐に従うふりをしているものの、次々とアヘン追放のための強硬政策を打ち出し、実行する林則徐の悪口を皇帝にメッセージした。しかし、林則徐は皇

帝の命令を信じ、これを実行するため敢然とイギリスに立ち向かい、イギリス船からアヘンを没収してこれを焼き払った。さらにイギリスからの攻撃に備えて、新式の大砲や砲台を作った。そして、1840年、報復に來たイギリス軍艦に立ち向かい、これに砲弾を浴びせて見事に撃退したのだ。そこで、イギリス艦隊は広東を攻めるのをあきらめて、目標を天津に定め、これを攻撃、そして北京攻撃も射程距離に入れた。ここで御身大切の役人たちは「こんな混乱を招いたのはすべて林則徐の強硬策によるものだ」と皇帝に進言した。その結果、情報をきちんと管理できていない当時の清の皇帝は、ついに林則徐を広東の都督軍から解任してしまった。すると、ずるがしこい帝国主義者イギリスは、いったん和平交渉によって広東の砲台を武装解除させた上、今度は一転して広東を攻撃した。

### ＜阿片戦争の行方は？その結末は？＞

さあ中国はどうするのか？林則徐はどうするのか？というところだが、残念ながらこの映画は、ここで民衆（民兵）が立ち上がり、イギリスの一部部隊を追い払うというお話で終わってしまっている。イギリスの武力行使はこのような民衆の抵抗・武装蜂起を招き、結果的には民衆の力によってイギリスを追い払ったという「きれいごと」の説明で終わっているわけだ。1959年の映画であり、かつ110分程度の映画だから、まとめ方としてはこれで仕方ないかもしれないが、大スペクタクルを期待していた私としては何となく物足りない気持ちになってしまった。また、林則徐の人生も中途半端なままだ。しかし、それを期待するのは無理というものかもしれない。阿片戦争というものの実態の一部を描いた作品として、それなりの価値はあるだろう。

2003（平成15）年2月3日記